

JAC AWARD 2023

Producer
Production Manager
Best Practice
Production Support
Director
Director Individual Application

JAC AWARD 2023



JAC AWARDは広告映像制作業界の優れた若い人材の育成を目的として一般社団法人日本アド・コンテンツ制作協会が開催している顕彰制度です。

ディレクター部門は毎年出されるテーマにそった30秒のオリジナル作品を応募者本人が企画・演出します。

ディレクター個人応募部門は、ディレクター部門と同じテーマで30秒のオリジナル作品を原則一人で企画・演出・撮影・CG・編集（画音）・制作を担当し制作します。

プロデューサー、プロダクションマネージャー部門、ベストプラクティス部門は携わった作品と資料を提出。

一次通過者は2分以内の自己PR動画を作成します。「プロデューサー力」「プロダクションマネージャー力」を評価するもので、個々の作品に対する制作能力や制作努力・制作アイデア等を評価ポイントとしており、“作品賞”ではないことが大きな特徴です。

プロダクションサポート部門は制作業務のサポート内容を評価する部門です。「制作部のサポートに関わる施策である事」以外に募集ルールはなく、「私達の活躍で、あのクオリティにつながった」、「制作部の労務を軽減した」、「新型コロナ禍の新しい働き方を支援した」など、広告制作各社における、ワークフロー改革等を実現したアイデア、取り組み、その具体的な工夫と成果を募集。

審査は過去の実賞者を含む応募者とほぼ同世代の若者の視点からも行われ、最終審査会は会場・オンラインで延べ600人以上が参加・視聴され、多くの会員社の刺激となりました。

部門

■ Producer 部門

対象作品 : 2022年9月17日～2023年8月29日に初公開された広告に関わる作品
(CM、Web(動画コンテンツ)、VP、音楽PV、インタラクティブ、デジタルコンテンツ等)

応募資格 : JAC正・準会員社の35歳以下、あるいは経験年数5年以下の社員

応募数 : 21名

受賞者数 : 6名

■ Best Practice 部門

対象作品 : 2022年9月17日～2023年8月29日に初公開された広告に関わる制作費
500万円(税抜)以下の作品
(CM、Web(動画コンテンツ)、VP、音楽PV、インタラクティブ、デジタルコンテンツ等)

応募資格 : JAC正・準会員社の35歳以下、あるいは経験年数5年以下の社員

応募数 : 7名

受賞者数 : 4名

■ Director 部門

対象作品 : テーマにそった30秒のオリジナルの動画作品
2023年のテーマ「多様性」

応募資格 : JAC正・準・賛助会員社の35歳以下の社員

応募数 : 16名

受賞者数 : 4名

■ Production Manager 部門

対象作品 : 2022年9月17日～2023年8月29日に初公開された広告に関わる作品
(CM、Web(動画コンテンツ)、VP、音楽PV、インタラクティブ、デジタルコンテンツ等)

応募資格 : JAC正・準会員社の28歳以下、あるいは経験年数5年以下の社員

応募数 : 49名

受賞者数 : 7名

■ Production Support 部門

対象施策 : 2022年9月17日～2023年8月29日までに
何らかの成果や効果があった施策。

応募資格 : JAC正・準会員社の社員年齢、職種問わず。

応募数 : 3組

受賞者数 : 3組

■ Director Individual Application 部門

対象施策 : テーマにそった30秒のオリジナルの動画作品を原則一人で制作
テーマはディレクター部門と共通。

応募資格 : JAC正・準・賛助会員社の35歳以下の社員

応募数 : 12名

受賞者数 : 4名

審査員

■審査委員長

中島信也(東北新社)

■Producer / Production Manager / Production Support 部門

【一次審査員】

阿部純（ハット）、石塚一幹（サンク）、内田直志（アームズ）、浦野慎司（GMO ENGINE）、
大谷竜彦（東映シーエム）、賀内健太郎（博報堂プロダクツ）、藏原康之（東北新社）、畔柳薫（TYO）、
小林俊明（ドアーズ）、佐久間裕二（ロボット）、佐藤一樹（THINGMEDIA）、椎橋卓見（電通クリエイティブX）、
白石道彦（電通クリエイティブキューブ）、菅谷一雅（パラゴン）、中島信也（東北新社）、西原正浩（TheProducers）、
本田達弥（ADKクリエイティブ・ワン）、元松敬介（FIELD MANAGEMENT EXPAND）、山田博之（AOI Pro.）、
山本真也（太陽企画）、横山真吉（シースリーフィルム）、横山隆平（東北新社）

【最終審査員】

潮田龍一（太陽企画）、金子涼平（WTFC）、城殿裕樹（KEY Pro）、佐藤一樹（THINGMEDIA）、
白石道彦（電通クリエイティブキューブ）、野中直（東北新社）、久松真菜（AOI Pro.）、山下誠（電通クリエイティブX）
PS部門のみ：勝沼玲子（太陽企画）、細谷正太（電通クリエイティブX）

■ Best Practice 部門

【一次審査員/最終審査員】

秋山基典（キュー）、碓氷和憲（日本デザインセンター）、大城立（ヴィス）、
岡田康宏（シースリーフィルム 名古屋オフィス）、島田賢一郎（東映シーエム 大阪支社）、
谷川竜之（大日）、津秋武稔（アットアームズ）、木綿達史（空気）、森重智子（太陽企画）

■ Director 部門/ Director Individual Application 部門

【一次審査員】

勝倉葉子、何瀬（電通クリエイティブX）、小林哲也（TYO）、近藤良隆（ENDOJI_LABO.）、
佐藤圭（電通クリエイティブキューブ）、佐藤こずえ（EPOCH）、鈴木美生、高原春菜（ハット）、
高橋亀善（ヴィス）、富田大秀（太陽企画）、長塩希代（博報堂プロダクツ）、中嶋駿介（博報堂プロダクツ）、
西遼太郎（FIELD MANAGEMENT EXPAND）、西村征暁（太陽企画）、寶榮夕貴（FIELD MANAGEMENT EXPAND）、
松岡芳佳、三浦和徳（電通クリエイティブキューブ）、吉村瞳（FIELD MANAGEMENT EXPAND）

【最終審査員】

泉田岳（太陽企画）、金澤善風（電通クリエイティブX）、小林洋介（東北新社）、
佐藤渉（TYO WHOAREYOU）、高島夏来、畑野亮（電通クリエイティブX）、平田大輔

■ Producer 部門 ▶

五十嵐英祐（GMO ENGINE）、大野瑞樹（ギークピクチャーズ）、鈴木創太（電通クリエイティブX）
中川実乃梨（ソーダコミュニケーションズ）、中川雄策（電通クリエイティブキューブ）、宮本卓（AOI Pro.）

■ Production Manager 部門 ▶

伊藤風太（二番工房）、岩倉美月（GMO ENGINE）、神谷諒（スプーン）、川口雄輝（太陽企画）、篠田里美（AOI Pro.）、
白木作夢（AOI Pro.）、種市美由紀（読広クリエイティブスタジオ）、中上拓弥（東北新社）、中澤達郎（ハット）

■ Best Practice 部門 ▶

大川嵩史（電通クリエイティブX）、岡本光平（キュー）、坂本菜奈（ヴィス）、佐藤美穂（パズル）、
富岡利彩（キラメキ）、西澤賢弥（KEY pro）

■ Director 部門 ▶

今井伸（AOI Pro.）、神田蘭子（博報堂プロダクツ）、桐生康佑（太陽企画）、櫻井美希（TYO）、
篠田衛（太陽企画）、高原春菜（ハット）、横島文恵（電通クリエイティブX）

■ Director Individual Application 部門 ▶

久保田碧音（太陽企画）、小口勝一（東北新社）、小山瑛司（東北新社）、セトタカアキ（アットアームズ）、
三木章太郎（東北新社）、山口えり花（電通クリエイティブキューブ）

■ Production Support 部門 ▶

白神裕治（東北新社）、西村英明（電通クリエイティブX）、みしまわかな（太陽企画）

■JAC AWARD 2023 Producer 部門 🏆 グランプリ🏆



大野 瑞樹

株式会社ギークピクチャーズ

入社年：2017年

受賞対象作品

「Yuzuru Hanyu ICE STORY 2023 “GIFT” at Tokyo Dome」

■受賞対象作品において、特に工夫したところ、苦心したところ

本作品は羽生さんの演技と幕間の映像演出を織り交ぜた全24プログラムで構成されたアイスショーでした。

ショーの大きな役割を担う中、テキストで届いた羽生さんが綴ったストーリーを、どのように映像表現に落とし込み、観客の皆さんへ届けていくのか。東京ドームでのアイスショーという新しいエンタメを楽しんでいくために、どうやって映像で感情を揺さぶっていくのか。何度も何度もお客さんの感情を想像しながら映像の構成を考えていた時期が、面白くもあり最も苦労した点です。

■普段から心掛けていること

「 “ プロデュースする。” ということ 」

■今後の目標や抱負、将来ビジョン

CM・MV・LIVE・映画・ドラマ・グラフィックなど、様々な経験を今まで意識的に積み重ねてきました。

そういった幅広いコンテンツがプロデュース出来る人間であるということを武器に、様々な局面において信頼されるプロデューサーになっていきたいです。そして、もっともっとプロの映像の力を必要としている人が、この世の中に多くいると思いますし、今後もどんどん増えていくと思います。

自身のプロデュース領域をもっともっと広げて、映像の力を信じる人の良きパートナーとなれるよう、日々努力していきたいと思っています。

Producer部門

🏆 メダリスト 🏆



五十嵐 英祐

GMO ENGINE株式会社
入社年：2014年



鈴木 創太

株式会社電通クリエイティブX
入社年：2021年



宮本 卓

株式会社AOI Pro.
入社年：2016年

受賞対象作品

サウジアラビア王国政府
Japan Animation
JAPAN ANIME TOWN - Anime Culture Export Project

受賞対象作品

公益財団法人日本デザイン振興会
世の中を良くする不快のデザイン展

受賞対象作品

クラシエ
いち髪
日本の四季篇

🏆 審査委員長特別賞 🏆



中川 実乃梨

株式会社ソーダコミュニケーションズ
入社年：2014年



中川 雄策

株式会社電通クリエイティブキューブ
入社年：2012年

受賞対象作品

大塚製薬株式会社
ファイブミニ
「社会人センイ向上大作戦」

受賞対象作品

昭和産業株式会社
企業CM
そっと、SHOWA ずっと、SHOWA篇

■ JAC AWARD 2023 Production Manager 部門 🏆 グランプリ 🏆



神谷 諒

株式会社スプーン

入社年：2018年

受賞対象作品

相鉄ホールディングス株式会社「相鉄東急直通記念ムービー 父と娘の風景」

■ 受賞対象作品において、特に工夫したところ、苦心したところ

この作品は200人以上が参加する大きなプロジェクトでした。

興奮と不安が入り混じる中奮闘するスタッフたちをPMとしてサポートしながら、
とにかくリアリティを大事にしようと思い、何度も相鉄線に乗車して細かな情報を整理しました。
その熱意が一因となり、鉄道ファンだけでなく世界中に届く作品となることができました。

■ 普段から心掛けていること

私たちPMの頑張りや熱量が作品のクオリティに直結するのだと意識することです。
効率だけでなく日周りや時系列を意識した香盤を作ったり、細かなリアリティを常に意識したり、
プロジェクトについて深く考えながらスタッフと接すれば、必ず彼らは応えてくれて、良い作品ができると信じています。

■ 今後の目標や抱負、将来ビジョン

撮影準備から納品までに関わる全てのスタッフの健康とお金について、健全な環境を整えられるPMになること。
現実問題難しい面も少なくないと思いますが、熱量だけでやり切ろうとするのではなく、
しっかりとそれを意識できるPMになって、次のステップを踏みたいと思っています。

Production Manager部門

🏆 メダリスト 🏆



川口 雄輝

太陽企画株式会社
入社年：2017年

受賞対象作品

株式会社パリミキ
「パリミキコレクション 気づいて欲しかった 冬セール篇」

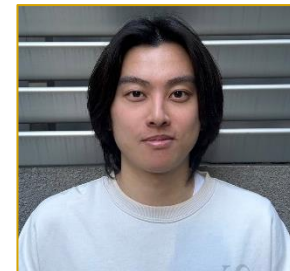


白木 作夢

株式会社AOI Pro.
入社年：2020年

受賞対象作品

朝日放送
2023 熱闘甲子園
「声が聴こえる。力になる。」



中上 拓弥

株式会社東北新社
入社年：2019年

受賞対象作品

株式会社三井住友銀行・三井住友カード株式会社
Oliveまだ知らない男たち篇
Oliveまとまる(マルチナンバーレスカード)篇
Oliveつながる(Vポイント)篇

🏆 メダリスト&審査委員長特別賞 🏆



中澤 達郎

株式会社ハット
入社年：2017年

受賞対象作品

Activision Blizzard Japan株式会社
Call of Duty Modern Warfare2
「応答セヨ」篇



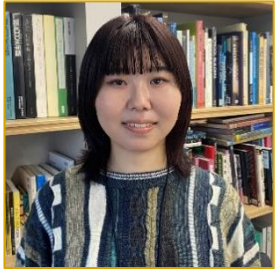
篠田 里美

株式会社AOI Pro.
入社年：2020年

受賞対象作品

日本郵便
手紙
旅たちの日に篇

■JAC AWARD 2023 Best Practice 部門 🏆 グランプリ🏆



坂本 菜奈

株式会社ヴィス

入社年：2022年

受賞対象作品

株式会社カネボウ化粧品 KATE SCHOOL

■ 受賞対象作品において、特に工夫したところ、苦心したところ

クライアント、代理店、学校、皆が初開催のイベントで、当日まで不安な要素が多くありました。

またイベント撮影に加え、その他インサート、生徒の集合カット撮影などに与えられた時間は2時間のみ。

このような状況で、必要な素材を把握し、時間内に収まるよう、スタッフや機材の配置、香盤などを工夫しました。

■ 普段から心掛けていること

広い視野を持ちながら、細かい部分にもこだわるということを心掛けています。

今回の作品を通して、改めてその大切さを実感することができました。

全体的な進行の部分に加えて、様々な想定から生まれる準備や気遣いこそが、作品のクオリティに直結してくるのではないかと考えています。

■ 今後の目標や抱負、将来ビジョン

現在2年目で、経験的にもまだまだ未熟な部分があり、自らの知見や今後の可能性を広げるためにも、

様々な作品に関わっていきたいと思います。

制作という役割だけでなく、企画やディレクションの部分などにも興味があるため、常に積極的な姿勢を持って日々の仕事に励んでいきたいです！

■ JAC AWARD 2023 Best Practice 部門 🏆 グランプリ 🏆



西澤 賢弥

株式会社KEY pro

入社年：2021年

受賞対象作品

愛媛県東温市スペシャルムービー「東温ラブストーリー」

■ 受賞対象作品において、特に工夫したところ、苦心したところ

全体予算が100万円という中でクオリティをどうやってあげるかを常に意識していました。

自分の努力で賄える箇所と、それに応じて予算をまわす箇所の配分はうまくできたと思っています。

それは積極的にコミュニケーションを取り続けるという、今までお世話になった様々な案件の中で培われ身に染み付いていた私の良さが一番発揮できたのかなと感じています。

■ 普段から心掛けていること

私はまわりから交渉上手だと言われます。それは常に自分と相手の要望の中間地点はどこかと考え続けているからかもしれません。「いい映像をつくる」という共通のゴールに向かって、お互いの意見の中で何が諦める事ができて何が必要なのか、というお互いの折衷案を考える事が大切だと思っています。

■ 今後の目標や抱負、将来ビジョン

今後進行していく案件の中で、それぞれ色んな壁があると思います。今回予算がないということを言い訳にせず頭を使い続けて良い映像を制作した事は良い経験となりました。

今後も映像のあらゆる可能性を諦めずに、映像の魅力を引き出し続けていけるPMでありたいと思います。

Best Practice部門

🏆 メダリスト 🏆



富岡 利彩

株式会社キラメキ

入社年：2022年

受賞対象作品

Triumph Motorcycles Japan
New Street Triple 765

🏆 審査委員長特別賞 🏆



佐藤 美穂

株式会社パズル

入社年：2021年

受賞対象作品

味の素冷凍食品株式会社
「やわらか若鶏から揚げボリュームパック」Instagram広告



■ JAC AWARD 2023 Director 部門 🏆 グランプリ 🏆



神田 蘭子

株式会社博報堂プロダクツ

入社年：2020年

最近の主な仕事

- 伊藤ハム・ポークビッツ「ポークビッツの魔法篇」
- 旭硝子財団・ブループラネット賞「ブループラネット賞紹介」
- SEED・ベルミー「#ベルミーダンス」

■「多様性」というテーマに対して、どうアプローチしたか？

人って、LGBTQ…みたいな枠組みをすぐ作るなあという印象があり、でも、そこからはみ出してる人だっているわけで、それは別に間違っているとかおかしいわけじゃないんだよ、正解なんてないんだよ。というメッセージになったらいいなと思いました。
ただ、お説教っぽくしたくないというのが一番にあり、オチは早めに決めていました。

■企画もしくは演出にあたり、工夫したところ、苦心したところ

下ネタなので、あえて画は一貫して爽やかになるよう心がけ、下品なイメージが強くないようにしました。露出狂のキャスト選びは少し迷ったのですが、こちらも爽やかな方をお願いしてギャップがでるようにしています。あとはテンポ感も大袈裟な感じよりは一定のテンションのままオチが来るようにしてシュールな印象にしました。

■普段から心掛けていること／将来、どんなディレクターを目指しているか？

クライアントやCDの要望もあるため難しさはありつつも自分の好きなシュールなトーンを企画に入れ込むことは意識しています。今はプランニング業が主なのですが、企業キャラクターもののCMがとても好きで、可愛いマスコットキャラが出る仕事を任されるディレクターになりたいです。



作品タイトル：はみ出しもの 

■ JAC AWARD 2023 Director 部門 🏆 グランプリ 🏆



高原 春菜

株式会社ハット

入社年：2020年

最近の主な仕事

- Be.okinawa2023 私だけの沖縄、見つけた。/沖縄県
- ロストエデン×雪平莉左 変身登場篇/EfunJapan
- JR東海ツアーズ とにかく旅行に行きたい水野/第10回BOVA

■「多様性」というテーマに対して、どうアプローチしたか？

「多様性を認め合う社会」と聞くと、すごく進んだ素晴らしい社会のように聞こえますが、そうではなくて、「人なら誰もが当然持っている権利を奪わない」とか「人格を否定し傷つけない」とか、そういった当たり前であるはずのことが当たり前誰にでも認められる社会が、「多様性を認め合う社会」ではないかと考えました。

個性だと祭り上げたり、偏見にまみれた肯定をすることが、マイノリティが望む「認める」ではないはず。それなのに「多様性を認めよう！」とさも素晴らしいことのように誇らしげに語ることへの違和感を描こうと思いました。

■企画もしくは演出にあたり、工夫したところ、苦心したところ

多様性というテーマをジャンプさせて自由に企画するのか、リアルな多様性に向き合って企画するのかとても悩みましたが、今までやったことのないトーンの作品に挑戦したかったので後者にしました。

マイノリティであることをカミングアウトする人、しない人。「認めているつもり」の人。登場するいろんな人たちの気持ちを考えることに苦労しました。傷つけるつもりがないのに傷つけていたり、傷ついているのに傷ついていないフリをしたりといった人間らしい微妙な気持ちを、30秒の中で伝えられるように、見せ方を工夫しました。

■普段から心掛けていること／将来、どんなディレクターを目指しているか？

一番気をつけるようにしているのは、伝わりやすさです。

将来は、企画を見た時に顔が浮かぶような、自分の色を持っているディレクターになりたいです。



ありのままだいだけ。

作品タイトル：認める？ ▶

🏆 メダリスト 🏆



今井 伸

株式会社AOI Pro.

入社年：2021年

最近の主な仕事

○Short film「春」- Sundae May Club



作品タイトル：やさしい私 

🏆 審査委員長特別賞 🏆



桐生 康佑

太陽企画株式会社

入社年：2023年



作品タイトル：あたまのおかしなやつ。 

■ JAC AWARD 2023 Director Individual Application 部門



小口 勝一

株式会社東北新社

入社年：2016年

最近の主な仕事

- メメタア/春風 MV
- メメタア/ソリチュード MV
- KETTLES/何をやってたんだ MV

■「多様性」というテーマに対して、どうアプローチしたか？

人間は本来それぞれ異なるものであり、多様な社会とは各個人が個性を隠さず、最大化できる環境である。と仮定してストーリーを作りました。

主人公の自己表現は一見独特かもしれませんが、彼の自分を曝け出す行為は歓迎されるべきことであり、その行為が他者からも認められると良いのかなと思いながら、映像化しました。

■企画もしくは演出にあたり、工夫したところ、苦心したところ

限られた尺で心情を表す方法として歌を用いました。メッセージをなるべく分かりやすくしたいと思いつつも、ストレートにしすぎると味気ないかとも思い、バランスが難しかったです。弁当を食べる人が登場して頷くことで、世界からの肯定を表しました。企画時にこの人の存在は入っていなかったのですが演出を考える際に、必要ではと勘づいて追加できて良かったです。

■普段から心掛けていること／将来、どんなディレクターを目指しているか？

何か変なこと起きないかなと思いながら日々過ごしています。ライブ映像やMVを作ることが多く、アイデアを考えるときは音をヒントにしている気がします。今後はお題に対してロジカルな回答が出せるよう精進します。

いつの時代に見ても良いなあと思えるような、普遍的な映像を作りたいです。



作品タイトル：割り切った人

■ JAC AWARD 2023 Director Individual Application 部門



小山 瑛司

株式会社東北新社

入社年：2022年

■「多様性」というテーマに対して、どうアプローチしたか？

私は世の中が最近になって多様性、多様性と多様性に対し敏感になり過ぎていると感じていました。多様性を認める時代にあっても、私たちは“みんな同じ人間”。一緒にいる喜び・繋がっている安心感・そんなに気にしすぎなくていいよ！というのを伝えたくたです。この映像を通して、少しでも肩の力を抜いてもらえたらと思い、制作しました。

■企画もしくは演出にあたり、工夫したところ、苦心したところ

トイレの自由なカメラアングル・シチュエーションを実現するため、また今後の表現の幅を広げるために3DCGに初挑戦しました。予算10万円の中でフルCGを作るべく、CGソフトblenderを使用し制作しました。

主人公のセリフ、話し方、見え方にはとても気を遣い、トーン、ニュアンスなど細かく何度も検証しました。

■普段から心掛けていること／将来、どんなディレクターを目指しているか？

自分は、現在プランナーとして修行中です。企画ができないとディレクションも責任を持ってできないと思ったからです。

普段から「子ども心」を忘れない事を心がけており、将来は、くだらないことを真面目にできるディレクターを目指しております！デビュー後はぜひよろしくお願いいたします！



作品タイトル：ここだけの話

🏆 メダリスト 🏆



山口 えり花

株式会社電通クリエイティブキューブ（現：Village inc.）

入社年：2019年

最近の主な仕事

- Willbe Clinic「一生の手間より一度のウィルビー」篇
- SnowMan「タペストリー」Dance Practice
- Vendome Aoyama「50ans Special Movie」



作品タイトル：CANDY STORE 

🏆 審査委員長特別賞 🏆



セト タカアキ

株式会社アットアームズ

入社年：2022年

最近の主な仕事

- アイセイ EverColor1day 新木優子 #7秒で恋落ちカラコンチャレンジ
- フジデリカ・クオリティ ダンス篇
- miwa『それでもただ』Music Video



作品タイトル：本心 

■ JAC AWARD 2023 Production Support 部門 🏆 グランプリ 🏆



施策名：こどもたいよう

太陽企画株式会社

応募代表者：みしま わかな

■ 施策概要

「こどもたいよう」は、こどもたちの未来をより良くするために、太陽企画ができることを考える場。

この場でふと出た小さな声が、「親子コマ撮り体験会」になったり、「映像制作業と子育ての両立」をテーマにした制作会社をまたいだ座談会になったりと、新しい取り組みにつながっています。

また、子育てのことを気軽に話し合える場、「こどもたいようTALK」も開設。大変なときを助け合い、誰もが諦めず思い切り仕事ができる環境を目指しています。

■ 施策において、特に工夫したところ、苦心したところ

無理せず続けること。

できることから、やってみること。



🏆 メダリスト 🏆



施策名：若手PMモチベーションアップと成長促進施策

株式会社東北新社

応募代表者：白神 裕治

施策概要

若手PMの離職離れを取り除くため、研修中の悩みや業務における苦悩などを話す場を個々で定期的に設け、モチベーションアップするように実施。

並行して、若手PMの際に必要なスキル、知識を社内新人対象用の勉強会や社外のプロダクションに向けての講習会などを行い、映像業界で働く楽しさを実感してもらうような内容で実施している。



施策名：私は誰でしょう？

株式会社電通クリエイティブX

応募代表者：西村 英明

施策概要

毎朝、会社から送られてくる「健康管理確認メール」への回答。

それを楽しく入力出来るものになると同時に、400人以上いる社員のデータベース構築を推進する施策。

具体的には、健康管理確認メール冒頭で「特定社員のプロフィール（子供の頃や趣味写真）」を使い、問題形式で出題。

健康管理メールの回答を済ませると、その社員が「誰であるかの写真」を、答えとして確認できる。

そこに社員データベースへの誘因も記載している。

ぼくらの仕事は世の中を明るくする

■審査委員長 中島信也



ぼくらの仕事は「アド・コンテンツ」をつくる、という仕事です。「アド・コンテンツ」がぼくらの「製品」つまり「プロダクト」。「プロダクト」をつくる仕事のことを「プロデュース」と呼びます。その「プロデュース」の母体となるのが「プロダクション」というわけです。

「製品」といってもぼくらの「製品」は工場のラインから大量に作り出されるものではありません。一つ一つ手作り、これはもう「作品」と呼んでもいいものです。この「作品」をプロデュースするのは人。システムやフローが存在していてもそれを動かすのはあくまでも「人」。「人（広告主さん）」の思いを叶えるために「人（広告会社さん）」が企画をし、その企画を「人（ぼくたち）」が形にする、という「人」がすべて、と言ってもいいくらい「人」が問われる仕事やとぼくは思うんです。

で、このJACアワード。まさにそんな「人」にスポットライトを当てるアワードです。もちろん「すごい作品！」とか「めっちゃめっちゃ手がかかってる！」といった作品のクオリティにも注目は集まりますが、その作品にかかわった「人」が、何を志し、何を思い、何を考え、何を感じながら実現させていったのか？という、言ってみれば「これを作ったのはどんな人？」という視点に重きを置いたアワードです。エントリーを通していろんな「人」と出会い、「人」を発見し、応援して育てる。これがJACアワードの本質です。

「人」の何を育てるのか？ぼくは「プロデュースする力」やと思っています。プロデューサー、これはもちろん作品をプロデュースする力を持った人です。プロダクション・マネージャーはこのプロデューサーの片腕として実現に向けて現場をプロデュースしていく人です。プロダクションサポート部門。これは言ってみれば「働き方・作品づくりの環境をプロデュースする」のが仕事。ベストプラクティスというのは「ある条件下でプロデュースする、というチャレンジ」に光を当てようという試みです。

ディレクターは、企画・演出という特殊技能を通して作品に貢献することによって「自分自身をプロデュースしていく」仕事です。「自分自身のプロデュース」の極みが「個人応募部門」だと言って良いでしょう。何が言いたいのかというとJACアワードではプロデューサーのみならず「プロデュースする力」を持った人を見つけ、応援し、育てていくアワードである、ということです。

そして、ここで育まれた「プロデュースする力」は映像作品だけにとどまらず、広告というプロジェクト全体をプロデュースしていく力となります。さらにいうとぼくらのこの仕事を通して磨かれたプロデュース力は社会の明るさをプロデュースし、日本の明るい未来、地球の素敵な未来をプロデュースできる力になっていくはずだ、とぼくはと思っています。「プロデュースする力」を育むぼくらの仕事は世の中を明るくするのです。そんな希望を感じさせる人たちに今回のアワードでたくさん出会うことができました。

エントリーしてくれた皆様、それを応援してくださった皆様、そしてこの素晴らしいアワードの実現を支えてくださったスタッフの皆様、協賛してくださった皆様、ほんとうにありがとうございました！明るい未来に向けてこれからもみんなで頑張っていきましょう！

企業ゴールド

株式会社AOI Pro. / 株式会社アーク・システム / 株式会社KEY pro / 株式会社クレイ、マックレイ
株式会社The Producers / 株式会社シースリーフィルム / THINGMEDIA株式会社 / 株式会社大日
太陽企画株式会社 / 株式会社TYO / 株式会社電通クリエイティブキューブ / 株式会社電通クリエイティブX
株式会社東北新社 / 合同会社TRES / 株式会社博報堂プロダクツ

企業シルバー

株式会社ADKクリエイティブ・ワン / 株式会社オムニバス・ジャパン / 株式会社角川大映スタジオ
株式会社ギークピクチャーズ / 株式会社サンク / GMO ENGINE株式会社 / 株式会社スプーン
株式会社ソーダコミュニケーションズ / ソニーPCL株式会社 / 株式会社ドマーニ / 株式会社二番工房 / 株式会社ハット
株式会社FIELD MANAGEMENT EXPAND / 株式会社ピラミッドフィルム / 株式会社読広クリエイティブスタジオ

個人プラチナ

中島 信也

個人ゴールド

佐藤 一樹 / 楽しく広告人学を学ぶ『アドバタラチオ』（トミナガマコト） / 西原 正浩

個人シルバー

安東 岐国子 / 椎橋 卓見 / 田代 宏之 / 松原 悠紀

特別協賛

株式会社アーク・システム / 株式会社イメージスタジオ・イチマルキュウ / 公益財団法人吉田秀雄記念事業財団





JAC AWARD 2023

主 催

一般社団法人日本アド・コンテンツ制作協会
JAPAN AD.CONTENTS ASSOCIATION